

明治東京のシンボル めぐる橋 眺める橋 展

会期：2023年 4月29日(土・祝) ～ 7月 2日(日)

会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館 2階

ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、2023年度第一回企画展として、2023年 4月 29日(土・祝)から 7月 2日(日)までの期間、『明治東京のシンボル「めぐる橋 眺める橋」』展を開催します。

文明開化を迎えた明治の東京。西洋風の建築物が次々と建てられ、西洋風の橋も多く誕生し、一気に近代的な街へと変化を遂げていきます。

江戸時代から交通の要衝であった街道筋の日本橋や浅草橋、万世橋、永代橋が、西洋の技術を取り入れて次々に架け替えられたのを皮切りに、吾妻橋や両国橋、江戸橋、海運橋、常磐橋、新橋、蓬莱橋など多くの橋が、東京を新たな時代にふさわしい都市として整備するために、続々と架けられていきました。

これら東京の街を縦横につないだ橋により、人々や物が自由に移動できるようになり、東京は活発な経済や新しい生活様式をおう歌できる近代都市として活気づいていきます。金融の街をつなぐ橋や社寺詣でに向かう参道の橋、駅と外国人居留地をつなぐ橋など、それぞれが新たな時代を往き来する架け橋となりました。

また、橋を介して東京の街中にガス管が渡され、ガス灯も建てられていきます。夜の通りや橋上を明るく照らしたガス灯は、人々の夜の活動様式を大きく変える一助になりました。そして、当時の最新技術を駆使して架橋された西洋風の鉄橋や石橋の姿は、近代東京の新たな都市の景観として多くの人が眺め、錦絵でも多数描かれました。

今回の展示では、橋上を思い思いにめぐる人々が新しい時代を享受する姿、そして近代都市東京のシンボルとなった美しいフォルムの鉄橋や石橋が錦絵に描かれた情景から、当時の街と人、社会の様子を垣間見ます。新緑の候、普段何気なく通り過ぎている東京の街の橋をめぐり、眺めながら、明治の元気な東京の息吹きを感じていただければ幸いです。

GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】 学芸員 高橋 豊

【日本橋】

改 架：明治6年(1873)5月

構 造：木造トラス橋

大きさ：長さ50.9m 幅10.9m

日本橋川に初めて橋が架けられたのは、慶長8年(1603)と考えられており、当初の橋は橋面が丸く反った木製の太鼓橋であったといわれています。

その後日本橋は、日本の五街道の起点として、江戸時代に何度も架け替えられました。明治維新後の明治6年(1873)に、馬車をはじめとした車の通行を考慮して橋面を平らにするため、西洋の技術を導入した木製のトラス構造の橋に架け替えられます。橋材には、材質が硬くて摩耗に強く、腐朽にくいケヤキ材が用いられ、四隅には石造りの親柱が立っていました。

明治7年(1874)12月には、車道と人道を分ける工事が行われ、明治8年(1875)3月にはガス灯も設置されて橋の上を明るく照らし、夜でも橋の往来がしやすくなりました。

その後、明治15年(1882)には鉄道馬車の線路が敷設されるなど、新たな交通手段や交通量の増加に対応して次々と改修されながら、明治40年代まで木造の橋として維持されていきます。

『作品2』には、人道を思い思いに渡る人々の姿と親柱の上に立つガス灯が描かれています。明治44年(1911)4月3日、現在までその姿をとどめている、石造りの橋に架け替えられました。『作品4』には、昭和初期、雨に洗われる美しい日本橋の光景が描かれています。



- 1) 日本橋夜景 小倉柳村 明治13年(1880)
- 2) 東京開化三十六景 日本橋魚がし 歌川広重(三代) 年不明
- 3) 東京名所之内 日本橋真景 小林幾英 明治19年(1886)
- 4) 東京風景 日本橋 ノエル・ヌエット 昭和11年(1878)

【蓬莱橋】

改 架：明治7年(1874)5月

構 造：石造単アーチ橋

大きさ：長さ14.5m 幅9.1m

かつて汐留川が埋め立てられる前に架かっていた橋のひとつが蓬莱橋です。

江戸時代までは、川の名をとって「汐留橋」と呼ばれていましたが、明治7年(1874)に架け替えをした際、橋北側にあった蓬莱社(ほうらいしゃ：土族、大阪商人たちが出資して設立した会社)が出資したことから、「蓬莱橋」と改名されました。

蓬莱橋は、明治5年(1872)に開業した新橋駅のすぐ北側に位置しており、東に進むと築地の外国人居留地がありましたので、鉄道を経て、横浜の外国人居留地と築地居留地とをつなぐ道筋にあたりました。

多くの外国人や西洋の文物が、蓬莱橋を渡って明治東京にやってきたことでしょう。

昭和4年(1929)5月に震災復興で改架された橋は、汐留川が昭和35年(1960)に埋め立てられたのにあわせ、姿を消しました。

36) 東京開化三十六景 汐留蓬莱社 歌川広重(三代) 年不明

37) 東京開化三十六景 志ん橋より蓬莱社 歌川広重(三代) 年不明

38) 東京真画名所図解 汐留 井上安治 明治17-22年(1884-89)

【二重橋】

改 架：明治21年(1888)5月

構 造：鍊鉄造アーチ橋

大きさ：長さ24.5m、幅10.6m

39) 東京名所尽 二重ばしの図 歌川広重(三代) 年不明



40) 皇城二重橋 井上安治 明治21年(1888)

41) 東京名勝会 宮城御出門二重橋ノ図 歌川国利 明治22年(1889)

おもな参考文献

東京の橋 石川梯二 (株)新人物往来社	1977年
中央区年表 続明治文化編	1982年
橋を透して見た風景 紅林章夫 (株)都政新報社	2016年
中央区の橋・橋詰広場 中央区教育委員会	1998年
明治期における東京の鉄製道路橋と技術者群像 伊東孝 土木史研究論文集 25巻	2006年

【常磐橋】

改 架：明治10年(1877)6月

構 造：石造2連アーチ橋

大きさ：長さ32.4m 幅11.5m

常磐橋は、明治10年(1877)に日本橋川に架けられた石橋が現存している、とても貴重な歴史ある橋です。『作品3 1』は、明治29年(1896)竣工の日本銀行落成の様子を描いた錦絵です。その左端に常磐橋が描かれています。

日本銀行は、明治15年(1882)に永代橋の脇で開業しますが、建屋が手狭であったため、日本橋に移転してきます。この地が選ばれた理由としては、大蔵省や同省印刷局が常盤橋を渡った大手町にあり、連絡の便がよかったことがあげられます。

また、銀行など金融機関も日本橋付近に集中してましたので常磐橋をめぐる形で市中の銀行と日本銀行、大蔵省などが繋がりました。

橋は関東大震災で被害を受け、交通を担う橋としての役割は下流側に新たに架けられた常盤橋に譲ります。一方常磐橋は、常盤橋御門の石垣とともに渋沢栄一の尽力により修復整備され、震災後も人道橋として利用されました。

その後、東日本大震災で再度被害を受けて解体修復がおこなわれ、令和3年(2021)5月に完了しました。常磐橋は今も、明治から令和をつなぐ時代の架け橋として活躍し続けています。

31) 日本銀行落成之図 篠原清興 明治29年(1896)

32) 写真「常磐橋」 新撰東京名所図絵 麹町区之部 上 第16編より 明治31年(1898)

33) 東京開華名所図絵之内 新橋通煉瓦造 歌川広重(三代) 年不明

34) 東京大日本名勝之内 自新橋工部大学之遠景 勝山英三郎 明治24年(1891)

35) 東京名所 銀座新橋之図 巨泉 明治31年(1898)

36) 東京開化三十六景 志ん橋より蓬莱社 歌川広重(三代) 年不明

37) 東京開化三十六景 志ん橋より蓬莱社 歌川広重(三代) 年不明

38) 東京真画名所図解 汐留 井上安治 明治17-22年(1884-89)

39) 東京名所尽 二重ばしの図 歌川広重(三代) 年不明

40) 皇城二重橋 井上安治 明治21年(1888)

41) 東京名勝会 宮城御出門二重橋ノ図 歌川国利 明治22年(1889)

42) 東京名勝会 宮城御出門二重橋ノ図 歌川国利 明治22年(1889)

43) 東京名勝会 宮城御出門二重橋ノ図 歌川国利 明治22年(1889)



【京橋】

改架:明治8年(1875)3月
構造:石造単アーチ橋
大きさ:長さ20m 幅14.5m

- 5) 東京名所 京橋之景
歌川芳虎 明治8年(1875)
- 6) 東京府下名所 京橋從煉瓦石之図
歌川広重(三代) 明治7年(1874)
- 7) 東京名所 京橋鉄道馬車往復煉瓦家ノ図
歌川広重(三代) 明治15年(1882)
- 8) 東京名所 京橋
渡辺忠久 明治23年(1890)

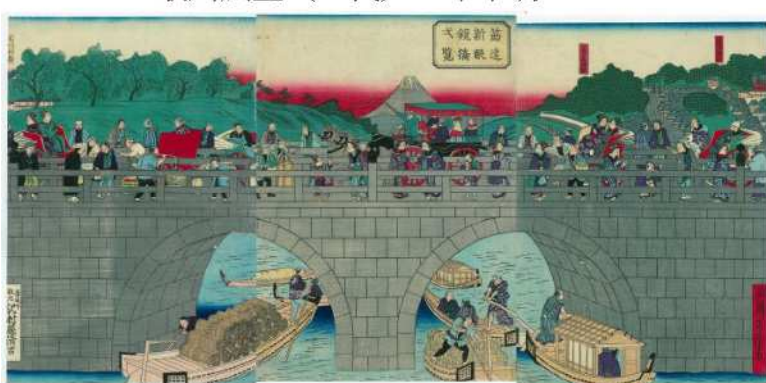
【万世橋】

改架:明治6年(1873)11月
構造:石造2連アーチ橋
大きさ:長さ27.3m 幅6m
かつて万世橋は、江戸城三十六見附のひとつの筋違御門から、神田川を渡って上野や中山道をつなぐ、「筋違(すじかい)橋」と呼ばれていました。明治6年(1873)、撤去された筋違御門の石垣を利用して改架され、名称も「万世橋(よろづよばし)」と変わりました。橋が架かっていた場所は、現在の万世橋の位置とは異なり、昌平(しょうへい)橋と現万世橋との中間あたりでした。

工事を手がけたのは、橋本勘五郎を中心とする、熊本を拠点としていた石工集団でした。この時の架橋には、中国から伝わり九州で進化した和式の技術が用いられましたが、当時は文明開化を象徴した新しい時代の橋の1つとして受け入れられていました。橋のたもとには、明治7年(1874)9月に疑似洋風建築の租税寮出張所が、また明治8年(1875)3月には京橋からこの建物の前までガス灯がともるなど、開化の文物が一堂に会する場所となり、数多くの錦絵にも描かれました。万世橋は別名「眼鏡橋」とも呼ばれ、『作品11』では、ニコライ堂のドームの手前に架かる美しい2連アーチの姿が眺められます。

その後、橋の名前は、いつしか「万世橋(まんせいばし)」と呼ばれるようになりました。石橋時代の擬宝珠橋柱の一部は、現在も神田明神に保管されています。

- 9) 東京開華名所図絵之内
筋違萬世橋より駿河台を望む
歌川広重(三代) 年不明



- 10) 筋違新眼鏡橋式覽
歌川芳虎 年不明

- 11) 東京大日本名勝之内
自萬世橋眺望ニコライ会堂景
勝山英三郎 明治24年(1891)

【浅草橋】

改架:明治7年(1874)10月
構造:石造単アーチ橋
大きさ:不明

- 12) 浅草橋夕景
井上安治 明治13年(1880)
- 13) (上) 浅草観世音境内細図
(下) 両国橋及浅草橋真図
井上安治 年不明



- 14) 古今東京名所 浅草の初橋神田川
歌川広重(三代) 明治17年(1884)

【永代橋】

改架:明治8年(1875)4月
構造:木造トラス橋
大きさ:長さ190m 幅11.4m

- 15) 東京土産名勝図会 永代橋日本銀行
歌川広重(三代) 明治17年(1884)



- 16) 新規造掛永代橋往来繁華佃海沖遠望之図
歌川国政(四代) 明治8年(1875)
- 17) 東京真画名所図解 永代遠景
井上安治 明治17-22年(1884-89)

【両国橋】

改架:明治8年(1875)12月
構造:木造トラス橋
大きさ:長さ162.5m 幅10.9m

- 18) 東京名勝之内 両国橋
歌川国利 明治11年(1878)
- 19) 千ほんくい両国橋
小林清親 明治13年(1880)

- 20) 東京両国橋川開大花火之図
永島春暁 明治23年(1890)

【吾妻橋】

改架:明治20年(1887)12月
構造:鍊鉄製プラットラス橋
大きさ:長さ148.8m 幅11.9m
浅草と隅田川対岸の向島を結ぶ吾妻橋の名の由来は、東岸にある吾嬬(あづま)神社への道筋にあたることからという説や、江戸から東へ通じる、または江戸の東にあるという意味の「東橋」からという説など、諸説があります。明治9年(1876)6月に木橋で改架された際に、正式な名称として吾妻橋に決まりました。この木橋は、明治18年(1885)7月の大洪水で流失してしまいました。その後、明治20年(1887年)、隅田川にかかる最初の鉄橋として改架されます。その近代的なトラス構造のフォルムが異彩を放ち、東京の新名所として注目を集めました。人道と車道に分けられた橋上にはガス灯が8基設置され、浅草寺と対岸の本所や向島を行き交う人々にぎわいました。橋正面の上方に「吾妻橋」の銘板が掲げられ、その下には桜紋のすかしの飾り板、端の柱には「建設年」や「設計者」を記したプレートが掲げられていました。

その美しく存在感のある姿は、錦絵の格好の題材として、正面だけでなく側面からの姿など、様々な構図の作品が多数残されています。『作品22』には、馬車に乗って橋を渡る紳士淑女や洋装の女の子を連れた親子などが、橋上に建てられたガス灯のもと、橋を渡る様子が描かれています。

- 21) 東京名所 自吾妻橋墨堤望図
藪崎芳次郎 明治22年(1889)
- 22) 吾妻橋
井上安治 明治21年(1888)



- 23) 東京名所 吾妻橋真景
小林幾英 明治22年(1889)
- 24) 東京名所 浅草吾妻橋之図
楊斎延一 明治23年(1890)
- 25) 東京吾妻橋新築落成之図
歌川国政(四代) 明治20年(1887)

【江戸橋】

改架:明治8年(1875)5月
構造:石造2連アーチ橋
大きさ:不明



- 26) 荒布橋從江戸橋之真景
歌川広重(三代) 明治10年(1877)
- 27) 東京名所図会 江戸橋郵便局
歌川広重(三代) 年不明

【海運橋】

改架:明治5年(1872)
構造:石造単アーチ橋
大きさ:長さ16.4m 幅10.9m
海運橋は、かつて江戸時代は近くに海賊奉行屋敷があったことから「海賊橋」と呼ばれましたが、明治元年(1868)に「海運橋」の名称に変更されました。橋の東側に位置する兜町は、明治6年(1873)に日本初の銀行である第一国立銀行が開業したのを皮切りに、金融の中心地として発展していきます。その金融街と日本橋や大手町の官公庁をつなぐ海運橋も、それに呼応するように明治5年(1872)に、石造りのアーチ橋に架けかえられます。石橋となった橋を渡って、多くの人々が日本橋や大手町界隈を行き交いました。その当時の様子は、木骨石造りの洋館の上に天守閣のような塔屋を載せた擬洋風建築である第一国立銀行の威容とともに、多くの錦絵の画題となりました。その後海運橋は、震災復興により昭和2年(1927)、鉄橋に改架されます。戦後、昭和35年(1960)に橋下を流れる楓川が埋め立てられたことで、橋は姿を消します。現在は、かつての橋際に石橋時代の親柱が残されています。

- 28) 東京開華名所図絵之内
海運橋第一国立銀行
歌川広重(三代) 年不明
- 29) 海運橋(第一銀行雪中)
小林清親 明治9年(1876)頃



- 30) 東京大日本名勝之内 海運橋第一銀行
勝山英三郎 明治24年(1891)